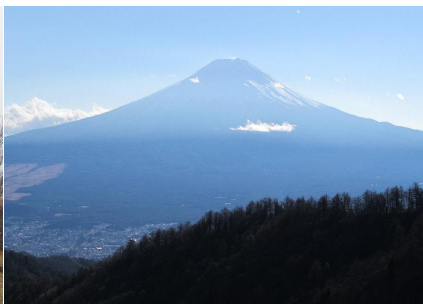


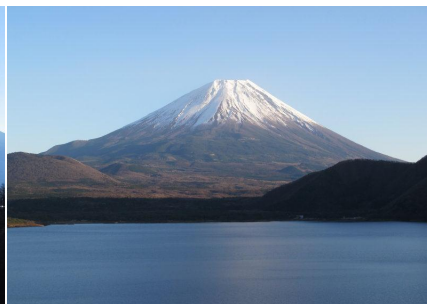
三 っ 峠 山 山 行 記 録



三ッ峠山山頂



三ッ峠山山荘前から



本栖湖から

目的地	三ッ峠山 (1,785m)	期 日	平成22年12月13・14日 (月・火) : 曇り・雨から晴れ
山人	笠原正雄・笠原澄子	特 記	富士山展望の山、二日にわたって別コースから登る。

地 点 名	時 刻	記 事
与 板 発	前日深夜発	高速道休日 1,000 円を利用するため、12 日午後 11:55 に長岡 IC に入る。
西 桂 町 い こ い の 森	13 日 4 時半過ぎ	都留 IC から R139 へ。富士急行三ッ峠駅からいこいの森の先の車道をゲートまで進み、少し戻って路側のスペースに駐車。仮眠。
歩 き 出 し	7:00	空が明るんで車中で朝食。男が 1 人ランニングで上がって下りて来た。思った程寒くなく、長袖下着+カッターシャツ+ベストで歩き出す。
達 磨 石	7:10	車道ゲート脇の山道に入り、橋を渡ってすぐに梵字が刻まれた石碑前が出る。
大 曲 り	7:43	乾いた枯葉の道を登る。登路が 180 度折れ上っている。
馬 返 し	8:07	九十九折れで徐々に高度を上げてきたが、ここで広い尾根に出る。この後所々岩場の急登が混じる。
		愛染明王～不二石と屈曲点に看板が立てられている。
八 十 八 大 師	8:38	広場脇の斜面に多数の坐像石仏が壇上に祭ってある。全部で 81 軀という。
一 字 一 石 供 養 塔	8:56	もう一度右折すると下りに入る。登路に雪が残っている。固く凍っている所もあるが面積は小さい。
屏 風 岩		右に垂直に立ち上がっている岩の基部を通過する。岩にはクライミングのボルト穴跡が空いている。
三 っ 峠 山 荘 分 岐	9:07	案内看板に従い、右の木製急階段を上がる。さらに直進すれば山頂方向だが、一度「四季楽園」前に出て、小屋主人と一言交わし山頂に向かう。
山 頂 (開 運 山)	9:25	三ッ峠山の名はここと両隣の木無山と御巢鷹山を合わせた総称である。霜柱で浮き上がった土を踏みながら上り、電波反射板前を経てピークに上がる。山頂石碑と山座円盤があるが、ガスで何にも見えない (写真左)。寒いこともあって、写真を撮って早々に「四季楽園」に戻る。靴を脱いでストーブにあたりランチとする。休憩利用料 1 人 500 円也。昨晚の宿泊者があったようだが、今日は我々のみである。ポットの湯を貰う。小屋傍にはジープとキャタピラショベルが置かれていた。
下 山 へ	10:35	
駐 車 地 点	12:00	富士吉田の道の駅で「ほうとう」を買い、杓子山の登山口まで行ってみた。
御 坂 み ち	14 日	
三 っ 峠 登 山 口 発	11:35	もう少し先へ舗装道を車で進めるのだが、電柱工事のため、バス停脇の広場に駐車して歩き出す。バスは季節運行でこの時期は運休。
三 っ 峠 登 山 口	11:50	ここから登山道となるが、ジープ道である。登山口には公営駐車場もあり、その先にはチェーンを巻いたジープ数台があった。公衆トイレもある。
霜 柱 の 凍 土	12:40	九十九折れのジープ道を上がり、このあたりから山道らしくなるが、霜柱で持ち上がった凍土が緩んでぬかり、歩きにくい。
展 望 地 に 上 がる	1:00~1:50	「四季楽園」は無人で施錠されていた。山頂へは行かず、右へ上がると山頂に雲が掛かっているが、逆光の富士山が拝めた。ベンチでランチ。後半、横浜からの同年代夫婦が上がって来た。ここにも山座円盤があり、彼らから甲斐駒、仙丈、北岳を教わる。鳳凰三山、南アルプスと山が連なる。右には八ヶ岳。
三 っ 峠 山 荘 前	1:55	展望地では少し木が邪魔をするが、ここからだ富士山の全てが望める山頂の雲も無くなり、下界の町並みもはっきり見える (写真中)。下山へ。
登 山 口 着	2:33	車に戻り、朝行って来たが、もう一度本栖湖に向かい富士山を撮る (写真右)。

富士山を見たいと思った。河口湖に宿を予約した。ところが、この2日間だけが曇りと雨の予報となった。従って初日は全く展望は無かった。2日目も朝から雨だった。しかし正午頃から晴れと出た。宿でぐずぐず時を過ごし、本栖湖まで行って来た。時間を遅らして別コースから同じ山に上がった。ねばった甲斐あって、何とか富士山を拝むことが出来た。三ッ峠山は北北東にあるため逆光となる。しかし、その全容はすばらしい。